



入植地で馬を使い耕作する高橋村出身の男性(1944年5月頃)



入植地のコーリャン畑で収穫する高橋村出身の人びと(1944年10月頃)

旧高橋村「大兵庫開拓団」が 入植した地にくらしした人びと ―モンゴル遊牧民、漢人農民そして日本人開拓農民―

2025年
9月13日[土]
↓
12月9日[火]

関連イベント/ギャラリートーク

写真家がみた元「大兵庫開拓団」入植地の現在

- 日時:2025年10月26日[日] 13:30~15:00
 - 講師:宗景 正氏(写真家、資料・写真提供者)
 - 定員:40人(電話かメールで10/23[木]までに事前申込みが必要)
 - 場所:展示会場(入館料が必要)
- ※展示担当者による解説の後、宗景氏にお話しいただきます。



豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館

午前9時半~午後5時(但し入館は午後4時半まで)
休館日:水曜日

後援:一般財団法人 兵庫県学校厚生会

協力:宗景 正(写真家)、高橋村満州開拓団の歴史を語り継ぐ会、満蒙開拓平和記念館



公式H・P



Facebook



インスタグラム



参加事業

旧高橋村「大兵庫開拓団」が入植した地にくらした人びと

—モンゴル遊牧民、漢人農民そして日本人開拓農民—

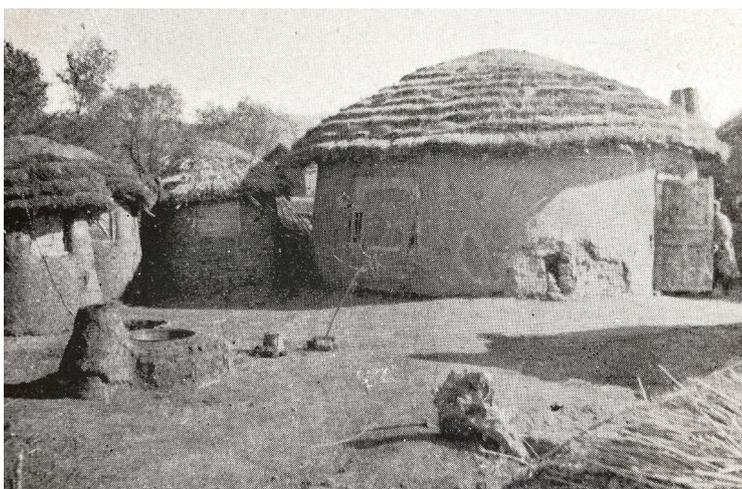


2025年は第二次世界大戦終結から80年を迎えます。終戦の前年にあたる

1944年春、高橋村（現在の豊岡市但東町高橋地区）から約500名が「第十三次大兵庫開拓団」を結成し、当時日本の支配下にあった「満州国」（現在の中国東北部及び内モンゴル自治区の一部）に移住しました。しかし約1年半後、1945年8月9日の「満州国」へのソ連軍の侵攻を受けてはじまった移住民たちの逃避行は、8月17日、約300名がホラン河で集団自決をする悲劇をたどります。本展ではこの事実を忘れないために、集団入植の経緯とその生活について、資料と写真からふり返ります。

また「大兵庫開拓団」が入植した「満州国滨江省蘭西県」（現在の中国黒竜江省綏化市蘭西県）を流れるホラン河一帯は、かつてモンゴルの人々が牧草や魚の採取地としてゆるやかに利用していた地域でした。しかし清朝時代に入ると、18世紀半ばから満州人や漢人の入植が始まり、土地をめぐるせめぎ合いも起こるようになります。その後、「満州国」時代に当局は、モンゴル貴族が所有し漢人農民らに耕作させていた「蒙地」の整理を進め、在来の権利を主張するモンゴル側代表との激しい対立を招きます。

本展では、原住諸民族の歩みに注目するとともに、500万人もの大量の日本人を「満州国」に移住させる計画が、現地に暮らす漢人農民やモンゴル遊牧民に何をもたらしたのかについても考えるきっかけになれば幸いです。



穀物倉庫をもつ固定住居の「ゲル」
（現中国内モンゴル自治区ヒンガン盟ジャライド旗、1939年）



住居「ゲル」の前で農具の犁を見せるモンゴル人女性
（現中国内モンゴル自治区赤峰市アルホルチン旗、1940年頃）



モンゴル語を自由に話す漢人の小作農一家
（現中国内モンゴル自治区ヒンガン盟ジャライド旗、1939年）



豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館

〒668-0345 兵庫県豊岡市但東町中山711
TEL.0796-56-1000 / FAX.0796-56-1022
https://www3.city.toyooka.lg.jp/monpaku/
monpaku@city.toyooka.lg.jp



みらい応援
対象事業

入館料

一般	大高校生	小中学生
500円	300円	250円

※身体障がい者手帳等をお持ちの方は半額
※県内の小中学生はココロカード提示で無料